



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第126号

2014.7.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- ーカワシンジュガイ探検隊について
- ー観察会のお申し込みについて
- ー『北広島町の自然』の販売について

活動報告

- ー春の溪畔林植物観察会
- ーモリアオガエル観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）
- ー霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

観察会案内

- ー可愛川の水生物観察会
- ー深入山の植物観察会
- ーせどやまの植物観察会

お知らせ

●カワシンジュガイ探検隊について

7月26日（土）に実施される「カワシンジュガイ探検隊」について、定員に達したため、参加受付を終了いたしました。多数のお申し込みをいただきありがとうございます。

●観察会のお申し込みについて

観察会が定員に達する場合があります。また、悪天候時の連絡などにも必要ですので、事前のお申し込みをお願いします。

●書籍『北広島町の自然』の販売について

2007年から2013年にかけて実施された、北広島町自然学術調査の結果をまとめた報告書が北広島町教育委員会より発刊されました。高原の自然館にてお求め頂ける他、電話・ハガキ・FAXでのご購入が可能です。町内に生息・生育が確認されている全ての種をリストとして掲載しています。身近な自然を知る為の道しるべとして、ぜひともご家庭に置いていただきたい一冊です。

書籍名：北広島町の自然（A4判、700ページ）

価格：5000円（発送を希望される場合、別途送料が必要です）

注文・問合せ先：芸北 高原の自然館

住所：〒731-2552

広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

TEL&FAX：(0826) 36-2008

※ご注文の際には、氏名・住所・電話番号・冊数を明記下さい。

観 察 会 報 告

●春の溪畔林植物観察会

開催日時：2014年4月25日（金）9:30

講師：齋藤隆登

八幡高原の聖湖（樽床ダム）周辺で、ヤナギの観察会を実施しました。参加者はみなさん芸北在住の方で、講師は齋藤先生です。実際に観察に向かう前に、先生のスケッチと図鑑の検索表を見ながら、同定のポイントを確認しました。

聖湖キャンプ場の駐車場で事前学習をした後は、湖岸に降りていきます。ダムの水は少なく、増水時には行けない中州まで歩いて行くことができました。ここで観察したのはオオタチヤナギの雌株です。先ほどの解説を思い出しながら、逆にした双眼鏡やルーペを使いながら、花のつくりを観察しました。説明で聞いていた腺体や腹腺体の話し、毛の生え方などが確認できました。

続いて、国道沿いの休耕地でコリヤナギを観察しました。コリヤナギは、おそらく繊維を取るために植えられたのだろう、ということでした。芸北の中に数箇所生育しているそうです。

最後に、川沿いに降りてタチヤナギを観察しました。このヤナギは、芸北では普通に見られる種です。また、近くには既に種になっているネコヤナギもありました。参加者のみなさんからは、「ネコヤナギの株は雌雄異株ではなく、別の種だと考えていた」という話しもありました。

今回の観察したのは、たった4種でしたが、じっくりと見ることで、ヤナギの花が少しだけ身近になったように思います。

（しらかわかつのぶ）



出発前に、検索表の見方や、オオタチヤナギの特徴を観察した。



ダムへの流入部を歩く。



双眼鏡を使って、花を拡大して観察する。



タチヤナギの雄花.



コリヤナギは、植栽と考えられている.



オオタチヤナギの雌花序.

【みなさんの印象に残った物】

「ヤナギに雄株・雌株があるのにびっくりした」「難しかったけど勉強になった」「ヤナギの雄株・雌株があるのが分かった」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「くわしく教えていただき、花も色々で感心した」「種を調べるのは大変な作業だと思った」「少人数なので良い勉強になりました」



コリヤナギの雌花序.

観 察 会 報 告

●モリアオガエル観察会

開催日時：2014年6月15日（日）9:30

講師：内藤順一

Save Japan 事業の支援を受けて、モリアオガエルの観察会が行なわれました。場所は北広島町豊平地区です。

梅雨の時期、モリアオガエルは産卵場所を求め山から移動します。この時期北広島町内では池にはりだした木にぶらさがっているソフトボール大の白っぽい塊をよく見かけ、話題にもなります。

この観察会では、モリアオガエルの生態、生息環境、産卵状況等を、講師の内藤先生からレクチャーしていただきます。

原東改善センターに38名が集合し、まずはスライドをみながら講師のお話を聞きます。モリアオガエルの名前の由来や大きさ、特徴などをクイズを交えながらとても楽しく学ぶ事ができました。特に、オス・メスの違いに興味を持ったようで、積極的な質問が出ていました。

レクチャーを受けた後は、池に向かい、実際の卵塊を見たり、モリアオガエルの姿を探しました。「抱接」をしている写真や動画では苦手そうにしていた子ども達も、現地に行くといきなり興味を持ってカエルを探し、観察していたのが印象的でした。やはり本物に触れる事は重要だなあと感じました。

あいにく、しばらく雨が降っていないのと、快晴であったため、産卵には向かないお天気でしたが、自分たちで個体を見つける楽しさを味わっていたようです。

他には、トノサマガエル、タゴガエル、アマガエル、ニホンアカガエル、ツチガエルも観察しました。

こういった機会に、少しでもいきものに興味を持ち、生態系や自然の保護などに結びつく活動につながれば嬉しく思います。

最後に、今回のスタッフでもあり、高原の自然館の生態展示アドバイザーでもある奥山さんから、モリアオガエルのフィギュアのお土産をいただきました。

大人から、子供までカエルの話を思いっきりすることができ、とても楽しく学びの多い観察会でした。（このやよい）



最初にひろしま NPO センターのスタッフから、Save Japan の取り組みについて説明があった。



内藤先生による座学。オス・メスの区別について、クイズを交えながらの楽しい時間。



内藤先生から出た問題に、たくさんの方が手を挙がった。



山道を歩いてフィールドに向かう。



最後にみんなで記念撮影！



観察場所に到着。

【みなさんの印象に残った物】

「モリアオガエルの雄が2匹いました」「産卵とヘビの動画」「たくさんカエルを見たこと」「カエルに出会えた事」「モリアオガエルの卵塊の泡」「実際に卵やカエルを見に行かせていただいて、触れ合うことができたことです」「モリアオガエルの卵を触ることができた」「泡の中にいるカエルを見てうれしかった」「カエルを触ったこと」「カエルがかんさつできたこと」「色々な種類があること」「カエルの卵塊の数」「モリアオガエルを見れたこと」「モリアオガエルの卵塊がいっぱいあったこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「お天気が良くて、なかなか雨が降らないので、モリアオガエルが産卵する様子が見られないけど、卵塊が沢山ありました」「生物が生活している環境を大切にしながら生活していきたい」「いろいろな生物を見つけた」「プロジェクターの資料が少し子どもには難しかった。カエルの住所の話がおもしろかった」「広島の身近な自然を実感できた」「自然と触れることが少ない子どもたちにとって貴重な体験となりました」「自然に実際観察しに行くことで、とてもよい経験になりました」「またカエルがみたい」「楽しかった(3)」「色々なカエルが見られてうれしかった」「森の中がすすしくてよかったです」



枝にたたずむモリアオガエルのオスを見つけた。

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原の植生調査

開催日時：2014年6月22日(日) 9:30

講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信

霧ヶ谷湿原で植生調査を実施しました。この調査は、工事が始まってから毎年続けているもので、今年は工事が完了してから6年目の調査となります。今回は、講師が3人、参加者が3人の、合計6人・3班での調査となりました。初めての参加者もおられましたが、みなさん普段から植物を観察されている方ばかりです。

始めに、高原の自然館で調査の目的と、植生調査の方法について確認しました。各班に配布された記録用紙には、昨年の調査で確認された種名が載っているため、今年も同じ場所を調査して、変化を確認します。

それぞれに分かれて、各班が4箇所ずつ調査をして、最後にまた高原の自然館で結果を見直しました。6年経っても種の組成には変化が見られますが、今回はそれぞれの環境で遷移が進んでいることが感じられました。例えば、湿った場所ではイグサやコウガイゼキショウが減少し、乾燥ぎみの場所ではフランスギクなどが消えていました。つまり、いずれも安定した種組成に向かいつつある、ということだと思います。

湿地の再生には時間がかかると言いながらも、水の廻り方は定まってきたことが感じられます。今後は、それぞれの環境に合わせて刈取りなどの施行計画を立てることと、水路の微修正による再生効率の向上が必要だと感じられました。(しらかわかつのぶ)



2名ずつに分かれて調査を行った。



枠の中にある植物を全て調べて、高さ・被度・郡度を記録する。



湿地が回復したプロット。ハンノキも見られる。



昨年の結果と比べながら記録していく。

【みなさんの印象に残った物】

「ヒメシジミが多く見られた」「初めての参加で、調査方法が分かりました」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「昨日からの雨で湿原全体が湿っていたので、流れが速いところ以外は湿原化の様子がわからなかった」「植物の名前を覚えないとできないなと思いました」



乾燥した調査区ではヨモギやススキが多く見られた。



高原の自然館で結果を報告し合った。

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

開催日時：2014年7月6日（日）9:30

講師：岩見潤治・大竹邦暁・松田賢・和田秀次

今回は61名という大人数での観察会となりました。初めての参加者も多く、最初は和田先生より、「気をつけたいいきもの」や「観察会のルール」のお話から始まりました。人数が多いため、植物担当和田先生と昆虫担当松田先生のペア、植物担当大竹先生と昆虫担当岩見先生のペアと二班に分かれました。

目指すは霧ヶ谷湿原です。途中の車道でもたくさんのおいしものを見つけました。マムシグサ、オニタビラコ、ミヤマイボの花や種、ヒメシジミやヒロシマサナエなど、みつけるたびに歓声があがったり、講師の解説にうなずく姿が見られました。

ヤマウルシ・ツタウルシの葉やマムシの姿を実際に観察することで、気をつけなければならないいきものを学ぶ事もできました。

湿原では、オニヤンマの羽化直後や、モリアオガエルの卵塊、カスミサンショウウオの幼生など、さわったり近づいたりしていきものを観察することができました。ミズチドリやノハナショウブ、クララなど湿原生の植物も目を楽しませてくれました。

専門家の講師ならではの視点で、虫コブと昆虫・菌類との関係や、外来種のお話など、非常に学びの多い観察会でした。

一方で、子供達はいきものを見つけて、それを捕獲することに一生懸命になり、捕まえたいいきものはしっかりと観察し、講師から名前や特徴などのお話を聞いていました。いきものは観察の後は逃がしました。

湿原にすむいきもの名前や生息環境や特徴がわかり、夏のひとときを満喫した観察会となりました。（このやよい）



高原の自然館前に集合。



注意点やルートを説明する和田先生。



“アオバアリガタハネカクシ”という、体液に毒素を持ち、皮膚炎を起こす昆虫の説明する岩見先生。



マムシの特徴を説明する内藤先生。



霧ヶ谷湿原の成り立ちや経緯の解説。



モリアオガエルの卵塊をさわったよ！

【みなさんの印象に残った物】

「単なる道路や草むらにたくさんの動植物の命の営みがあり、それぞれに驚く程に個性があることを知りその豊かさにワクワクしました。」
「ヒメシジミが見れて良かった(2)」「ヒロシマサナエとかヒメシジミを見ることができて良かったです」「モウセンゴケ」「オニヤンマの羽化」「ヒメシジミがたくさんいたこと」「モリアオガエルの卵を実物で見たこと」「チョウチョを2匹つかまえることができたこと」「マムシを間近に見たこと(5)」「先生がとても親切で、何でも心良く教えて下さり、とても楽しかったです」「マムシ・カスミサンショウウオの幼生に出会えた事」「虫がたくさんいた」「モリアオガエルの卵塊」「カッコウの鳴き声を聞いた事」「湿原を歩けた事」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「知る事は自然や環境を大切にしたいと思う事の第1歩だと思いました」「また来たいと思います」「すごく楽しかったです。いろいろ教えてもらえて嬉しかったです」「普段見られない虫が色々みられて楽しかったです」「いろいろな種類の虫がいておもしろかった」「もっともっとイベントがあれば」「湿原にいろいろな生き物がいることを実際に見学出来て、ガイドも詳しくかった」「また参加したいです」「久しぶりに自然にふれる事ができ、非常に有意義でした」「先生方がとても親切で、わかりやすい説明でした」「雨が降ってきましたが、自然の中でゆっくりと観察できて楽しかったです」「久しぶりにゆっくり自然の中を歩き楽しかったです」「子どもには、距離が長かった様です」「めずらしい虫や植物ばかりで、感動しました」「バツヤトンボ、ホタルを捕まえて、よく観察できて良かったです。雨でも子ども達が頑張って歩くことができました」「また来たいです。はじめて見て感動!!」「とても楽しかったです」「楽しかったです。けど雨が降ったのが残念です」「楽しいイベントでした」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●可愛川の水生生物観察会

開催日時：2014年8月3日(日) 13:00
集合場所：千代田中央公民館
講師：内藤順一
準備：基本セット、川に入れる服装、脱げにくいサンダル、ゴーグル、あればシュノーケル
定員数：30名
参加費：無料
※今回はSAVEJAPANの支援を受け実施します

千代田地区の可愛川で、特別天然記念物のオオサンショウウオを観察します。事前学習を行ったあと、現地で調査のお手伝いをしていただきます。普段は採る、触れることのできないオオサンショウウオを間近で観察する良い機会です。川に入れる服装、脱げにくいサンダルでお越しください。

●深入山の植物観察会

開催日時：2014年8月30日(土) 9:30
集合場所：いこいの村ひろしま 研修室
講師：大竹邦暁・佐久間智子・和田秀次
準備：基本セット、弁当
定員数：40名
参加費：一般=300円、賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

去年より1ヶ月早い深入山での植物観察会です。毎年山焼きによって草原が維持されている深入山と雲月山では、植生の違いはあるのでしょうか。深入山の成り立ちや、植物についての座学を行った後、現地を観察します。頂上で昼食となりますので、お弁当をご準備下さい。

梅雨の続く八幡高原では、しっとりした雰囲気の中に咲く、クサレダマやハンカイソウ、オカトラノオやヒヨドリバナが、湿原を美しく彩っています。先日見かけた時はつぼみだったものが、咲いているのを見る度に、夏が来たのだなあ、と実感します。雨上がりは足元に気をつけながら、ゆっくりと湿原を楽しんでいます。(ありみつ)

●せどやまの植物観察会

開催日時：2014年9月15日(月・祝) 9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：佐久間智子・中島康弘
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般=300円、賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

せどやま(家の裏山)や田んぼの周りを歩きながら、身近な場所に生育する植物を観察します。座学を行ったあと現地に向かい、林の中や林の縁、道ばたや田んぼの畔などをゆっくりと観察します。



記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info